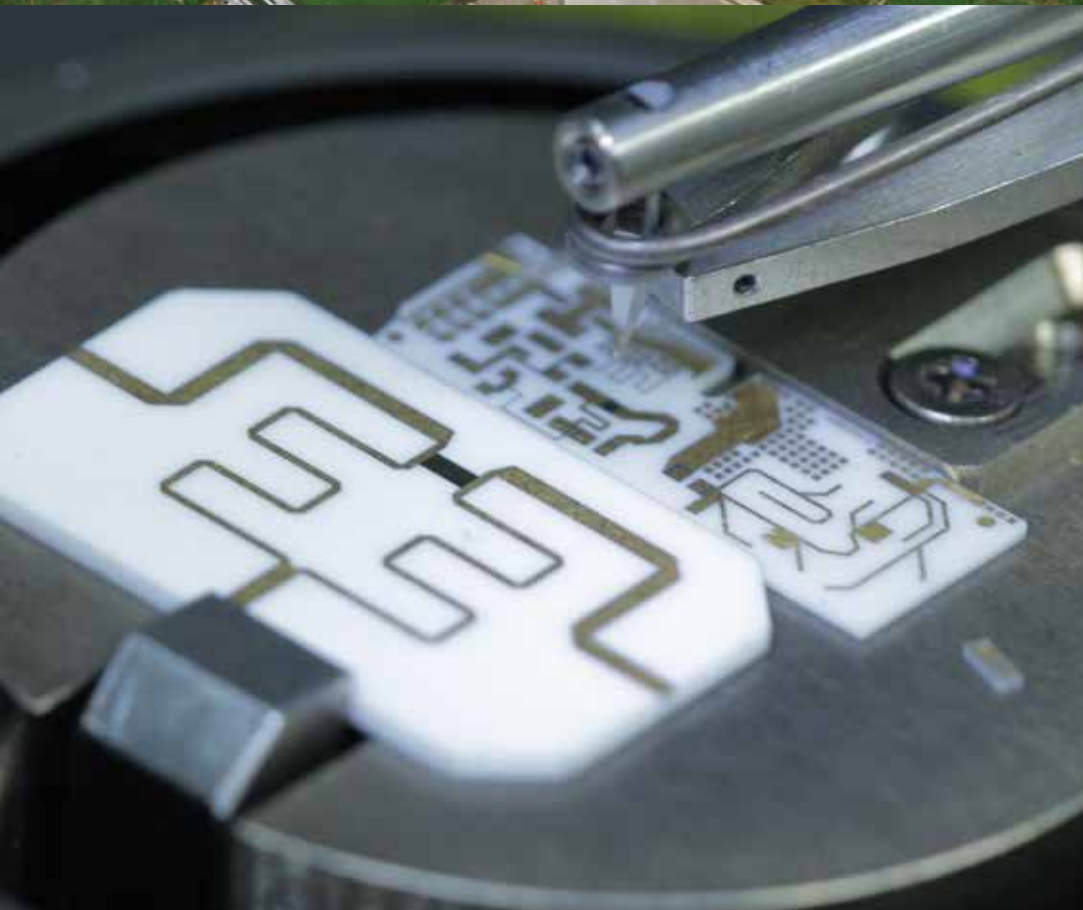




CHAPTER 6

事業戦略

本章では、総合エンジニアリング事業並びに機能材製造事業における取り組みや、分野毎の成長機会や中長期的なリスクについてお伝えします。

81 総合エンジニアリング事業

海外オイル&ガス分野
海外インフラ分野
国内分野

84 機能材製造事業

触媒・ファインケミカル分野
ファインセラミックス分野

総合エンジニアリング事業

海外オイル&ガス分野



日揮グローバル株式会社
取締役
オイル&ガス
プロジェクトカンパニー
カンパニープレジデント
佐藤 諭志

対象分野

原油・ガス集積、石油精製、ガス処理、LNG(液化天然ガス)、石油化学分野などにおける各種プラントの設計・調達・建設

2019年度受注実績

約 **550** 億円

2020年度受注目標

4,000 億円

成長機会

- ・世界的な人口増加を背景とするエネルギー需要の増大
- ・LNGをはじめとする、環境負荷の小さい化石燃料の需要増大

中長期的なリスク

- ・化石燃料全体の需要減少
- ・資源マーケットの低迷による顧客の設備投資計画の先送り

事業方針

2019年度はCOVID-19の感染拡大による世界経済の減速や原油価格が急落した影響で、2019年10月に受注したモザンビークの大型LNGプラント建設プロジェクトの最終投資決定が先送りされたことなどから、低水準の受注に留まりました。2020年度の市場環境も引き続き先行きが不透明ですが、中東で計画されている製油所近代化プロジェクトをはじめ、進展が期待される案件の受注確保に取り組み、4,000億円の受注目標達成を目指します。中

長期的には、世界的な人口増加に伴うエネルギー需要の増大を背景に、オイル&ガス分野の設備投資は堅調に推移することが見込まれており、デジタル技術の活用による競争力の強化や、低炭素・脱炭素化技術の導入などをスピード感を持って取り入れることにより、日揮グループのコアビジネスとして持続的な成長を図ってまいります。

海外インフラ分野



日揮グローバル株式会社
取締役
インフラストラクチャー
プロジェクトカンパニー
カンパニープレジデント
林 晃光

対象分野

再生可能エネルギー発電(太陽光、バイオマス、風力)、LNG・LPGターミナル、廃棄物発電、医薬品・食品工場、病院、空港、非鉄金属製錬などを中心とする、各種インフラ設備・施設の設計・調達・建設

2019年度受注実績

約 **50** 億円

2020年度受注目標

1,400 億円

成長機会

- ・新興国の人口増加に伴う新規インフラ需要の増大
- ・低炭素社会に向けた再生可能エネルギー需要の増大

中長期的なリスク

- ・新興国の経済減速による設備投資の停滞

事業方針

2019年度は優先交渉権を獲得していた、東南アジアのLNG受入基地建設プロジェクトの最終投資決定が先送りされたことなどから、低水準の受注に留まりました。2020年度もCOVID-19の影響などにより先行きが不透明な状態が続きますが、東南アジアにおける非鉄製錬プロジェクトなど、進展が期待される案件を着実に受注し、受注目標の達成に取り組んでまいります。

主要ターゲットとしている東南アジア地域では、各種インフラ施設の需要増大が見込まれており、潜在顧客に対して、計画の上流段階から積極的な提案を行うことで案件を組成し、継続的な受注を目指すアカウントフォーカス型のアプローチで着実に優良案件を受注・遂行し、海外オイル&ガス分野に続く日揮グループの今後の経営の柱として成長させてまいります。

総合エンジニアリング事業

国内分野



日揮株式会社
代表取締役
社長執行役員
山田 昇司

対象分野

オイル&ガス、ケミカル(化学)、医薬品・研究所、ヘルスケア(医療・福祉)、再生可能エネルギー発電、原子力関連など、各種のプラント・施設の設計・調達・建設並びにメンテナンス

2019年度受注実績

約 **1,300** 億円

2020年度受注目標

約 **1,300** 億円

成長機会

- ・石精・石化関連プラントの老朽化に伴うメンテナンス需要の増大
- ・低炭素社会に向けた再生可能エネルギー需要の増大
- ・少子高齢化の進展によるライフサイエンス分野の設備投資増加
- ・原子力発電所の廃止措置関連案件の増加

中長期的なリスク

- ・化石燃料の需要減少および原油価格の低迷による石精・石化関連分野への新規大型設備投資の減少
- ・国内景気の低迷によるインフラ分野への設備投資低迷

事業方針

2019年度はバイオマス発電所、太陽光発電所、医薬品製造設備、研究所、医療施設などで着実に受注を積み上げ、メンテナンス分野も堅調に推移した結果、期待していたレベルの受注を確保することができました。2020年度もバイオマス発電所、原子力発電所の廃止措置関連、医薬品製造設備、医療施設、化学案件など、COVID-19や原

油価格の動向に左右されにくい、インフラ設備の案件を中心に受注を積み上げることでグループの収益を安定的に下支えしていく役割を担ってまいります。加えて、人口減少・少子高齢化といった問題を抱える課題先進国、日本に貢献していくことを念頭に技術の研鑽と事業の拡大に注力していく所存です。

機能材製造事業

触媒・ファインケミカル分野

対象分野

石油精製、ケミカル、環境保全などの触媒、および半導体、情報・電子、光学、化粧品などの材料となるファインケミカル製品の開発、製造

成長機会

- ・製油所のケミカルリファイナリー対応への新触媒需要の拡大
- ・環境意識の高まりを背景とする、シリカビーズを使用した化粧品材料や環境保全触媒の需要増大
- ・高精細テレビや5Gの普及による反射防止材や半導体研磨材などの機能性塗料の需要増大

中長期的なリスク

- ・中国経済停滞による機能性塗料の輸出減速
- ・原油安による石油精製触媒の需要減少

事業方針

2019年度は触媒分野において流動接触分解(FCC)触媒、ケミカル触媒および環境保全触媒の受注が順調に推移したものの、ファインケミカル分野における機能性塗料材などの輸出が、米中貿易摩擦などの影響により減速しました。2019年度はCOVID-19の感染拡大による影響は軽微であったものの、2020年度においては原油価格下落の影響も相まって触媒需要の減少が見込まれており、動向を注視しています。今後はFCC触媒の国内シェアの拡大および海外市場への拡販、ケミカル触媒の新規案件の開拓や機能性塗料材の拡販および多用途展開、さらには化粧品材料の生産性向上などの取り組みを通じて受注拡大に注力してまいります。



日揮触媒化成株式会社
代表取締役社長
平井 俊晴



石油精製触媒(流動接触分解(FCC)触媒)



シリカビーズ

化粧品材料
(環境に優しい無機材料であるシリカビーズ)

ファインセラミックス分野

対象分野

半導体、自動車、情報通信、産業機械、医療、宇宙分野向けセラミック材料の開発、製造

成長機会

- ・5Gの普及による光通信関連部品、半導体関連部品の需要増大
- ・電気自動車、ハイブリッド自動車の普及拡大による高熱伝導窒化ケイ素基板の需要増大

中長期的なリスク

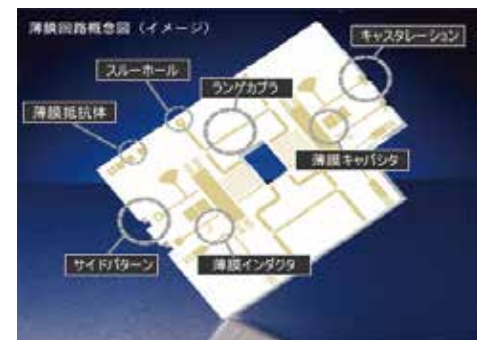
- ・中国経済停滞による半導体関連投資計画の先送り

事業方針

2019年度は中国での5G普及の進捗が当初の見込みを下回り、光通信関連部品および半導体関連の成膜・エッチング装置用部品の受注が低調となりました。2020年度においてはCOVID-19の感染拡大に伴う世界経済の減速が市場環境に与える影響を注視しています。今後は光通信用回路基板の新規案件獲得に注力するとともに、無線通信、LED、センサー分野などへの参入も推進してまいります。また電気自動車のパワーユニットに用いられる高熱伝導窒化ケイ素基板の新工場をスムーズに立ち上げ、量産化に向けた品質向上および生産効率化に取り組み、将来的な収益の柱の一つとして成長させてまいります。



日本ファインセラミックス株式会社
代表取締役社長
田中 宏



薄膜集積回路